

◆ 検査室

副技師長 坂口 司

検査室を構成する検査技師は、検体部門2名、生理検査部門3名の計5名で運用している。

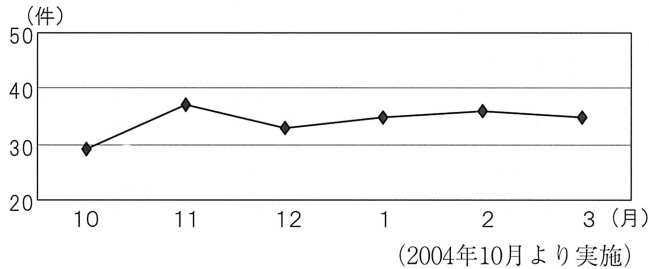
【検体検査の取り組み】

2004年度は開院2年目を迎え、これまでの検査室の立ち上げから収益の増収、情報の提供を主体とした行動計画を実施した。必要最低限の人員配置により制約を受ける点もあったが以下の点について取り組んだ。

1. 細菌検査の直接塗抹鏡検

検体からの直接塗抹鏡検は薬剤のファーストチョイスの選択に必要な検査である。細菌培養や薬剤感受性検査を院内で実施するにはコスト、スペース、スタッフ数などから現実味をもたない。検体検査技師2名が鏡検出来るよう研修し、時間外および休日での対応も実施した。

2004年度下半期塗抹鏡検数



2. 細菌検査の週報、月報

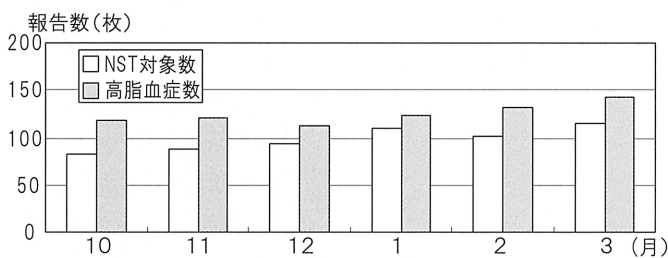
細菌培養の結果について週報、月報をまとめ感染管理医へ提出。感染管理委員会に報告を行った。

3. NST・高脂血症のリストアップ

NSTに必要な検査データ及び高脂血症対象者リストを抽出し、毎日各科へ報告書を配布した。

また、各病棟のNST回診に参加し、最新のデータを抽出したものを資料として配布した。

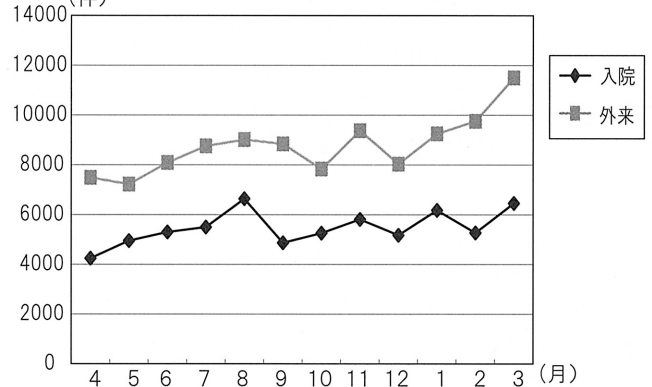
2004年度下半期



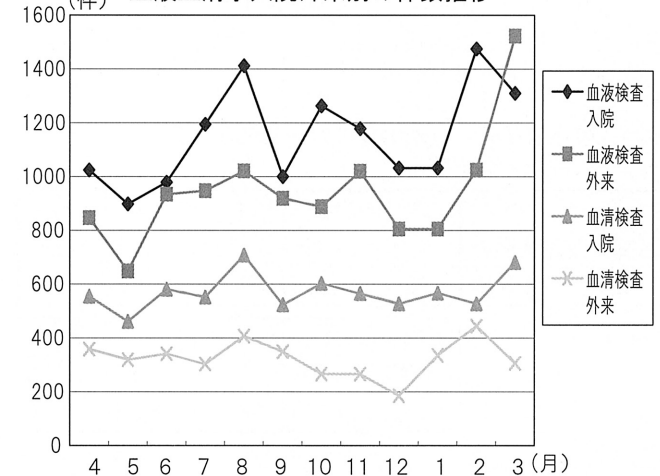
4. 機器整備計画

検査室の器材の有効利用を考え、今後数年で耐用年数がかかる器材や、開院以来有効利用していない国立病院からの譲渡品を含めた次年度の整備計画を立てた。

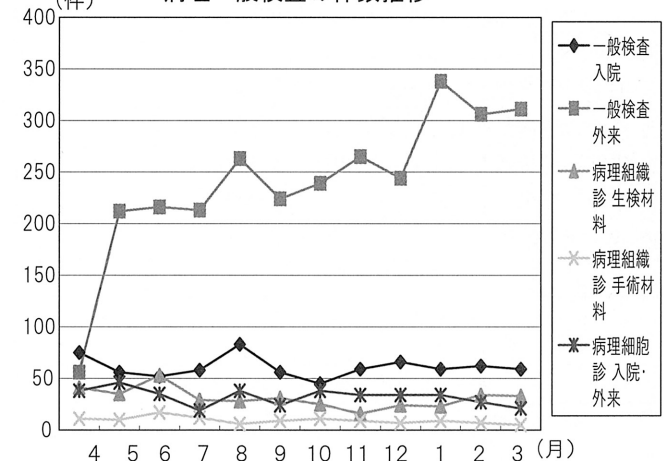
生化学入院外来別の件数推移



血液血清学入院外来別の件数推移



病理一般検査の件数推移



【生理検査の取り組み】

1. 業務実績

超音波検査件数は2003年度の約1.5倍に増加し、超音波検査以外の検査も1.2倍程度増加した。

特に体表エコーが2003年度の4倍に、血管エコーが2倍になった。腹部エコーは1.5倍、心エコーは1.3倍になり、負荷心エコーは心エコー全体の12%を占める。

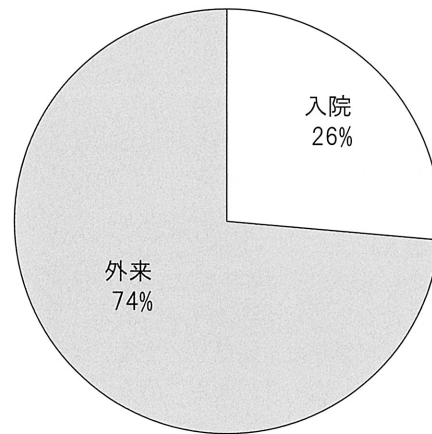
また生理検査の外来の占める割合が74%となり2003年度より多くなり、外来を中心とした検査室の効率化が重要になった。

2. 学術活動

心エコー懇話会、日本超音波医学会・九州地方会での発表を行った。院内においては5月より2カ月に1回の割合で院外向けのオレンジ勉強会を行っている。

生理検査件数比率

	エコー件数	その他	合計
2003	3,566	3,471	7,037
2004	5,224	4,008	9,232
伸び率	1.5	1.2	1.3



	心エコー	経食道	下肢血管	体表	腹部	頸部血管	合計
2003	1,626	25	153	55	1,491	216	3,566
2004	2,103	28	332	211	2,156	394	5,224

